

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック 保幼小中連携	実践的教育活動を 校区内で統一する	① 合同授業研等で、連携カリキュラムを有効に活用する。 ② つながり力の育成に向けて、それぞれ（各校園所、各学年）が授業で何を大事にすべきかを明確に持つ。	① 連携カリキュラムの見直し、修正について検討する。 ② 各校、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業に取組み、それぞれの実践を各校が交流し、取り入れる。	① 連携カリキュラムに必要な項目について検討し、追加作成を行う。 ② 校区全体で子どもが主体的・対話的に学んでいる授業を実践する。
確かな学力の育成	算数科を通して、 論理的思考力を育む	・福井小スタンダードの徹底 ・学習の約束を教室に掲示 ・「聞く・話す」活動の推進 ・算数アンケートの活用 ・計算タイムの継続 ・思考したことを記述できる力の育成、 ・論理的に説明する力の育成	・外国語活動の授業実施 ・外国語活動の授業研究 ・論理的に説明する能力の育成（算数科） ・授業力の向上 ・主体的な研究授業、公開授業の実施	平成30年度の取り組みの継承と深化 ・外国語授業実施 ・外国語活動の授業研究 ・論理的に説明する能力の育成（算数科） ・授業力の向上 ・主体的な研究授業、公開授業の実施
豊かな人間性を育む	子どもどうしがつながる集団	・近隣園校との交流 福井幼稚園（避難訓練、おもちゃ祭り、体験入学、チャイルドカーニバル） 茨木支援学校（交流会） 福井高校（英語・町たんけん） ・スマイル週間（人権週間） ・ペア学級の交流（読み聞かせ・計算タイム）	・交流行事の精選を行い、校内の他学年交流の機会の充実 ・人権教育の推進 ・集団づくりの推進 ・豊かな人間性を育む道德教育の推進	・交流行事の精選を行い、校内の他学年交流の機会の継承と深化 ・人権教育の推進 ・集団づくりの推進 ・豊かな人間性を育む道德教育の推進
健康・体力の増進	体力の向上を目指して	・多様な動きの育成 茨木っ子運動を運動会や授業の準備体操で取り組む ・授業力の育成 全職員スポーツテストに向けて講習を受講 ・体づくりの向上 マラソン週間・大会の設定 なわとび週間の設定	平成29年度の実践の継承 ・全学年で取り組める体力向上カリキュラムの作成 ・体力テスト結果を踏まえて課題解決に向けて考察	平成30年度の実践の継承と深化 ・年間を通して全学年で取り組める体力向上カリキュラムの実施 ・体力テスト結果を踏まえて課題解決に向けて取り組む
支 援 教 育 の 充 実				

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
良好な結果であった
- ② 書くこと
良好な結果であった
- ③ 読むこと
良好な結果であった
- ④ 言語事項
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・漢字の読み、物語の読み取りの設問に対する正答率が高かった。
- ・漢字の書き取り、自分の言葉で自分の考えを書く設問に対する正答率が低かった。

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・自由記述の問題では、全国平均より正答率が低かった。

分析

<福井小の子どもたちの課題>

- ・A問題、B問題ともに記述式の問題が弱い。特に自由記述の問題の無解答率が高い。
- ・漢字の書き取りが弱い。
- ・伝統的な言語文化の問題が弱い。

<課題克服のために>

- ・漢字は繰り返し練習して覚えることが大切なので、家庭学習でも漢字を取り入れ継続して行うようにする。
- ・無解答率が高い問題は、時間が足りないことと、問題を見て諦めたことが予想される。普段から多くの文章に触れておく必要がある。
- ・「ことばの力」プリントの活用をする。(モジュール授業や国語の授業を使って)
- ・振り返りを100字以内で書く活動を取り入れる。
- ・授業の中で要約を行う。
- ・教科書に線を引いてから答える習慣をつけさせる。

〇●算数●〇

算数A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・こみ具合を比べる問題では、非常に正答率が高かった。
- ・小数の除法の意味について答える問題では、非常に正答率が低かった。

算数B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・折り紙を使った規則性を問う問題では、正答率が高かった。
- ・様々なグラフから読み取った記述を選ぶ問題では、正答率が非常に低かった。

分析

<福井小の子どもたちの課題>

- ・図形の問題が弱い。
- ・資料やグラフを見比べ、読み取る力が不足している。
- ・日々、自分の考えを説明するよう授業で取り組んでいるが、いつでも使える力として育まれていない。

<課題克服のために>

- ・日々の授業でホワイトボードなどを使って、自分の考えを説明する取り組みは継続する。
- ・他教科と連携しながら、算数で学んだことを生かす授業づくりに取り組む。
(国語や社会の資料の読み取りや家庭科の計算など)
- ・具体物を活用した授業作り。
- ・ノートに自分の考え方を書く活動を取り入れる。書き方も指導する。(アレイ図など)
- ・グラフの見方の指導。
- ・日々の授業で、説明する活動を取り入れる。聞く側もクリティカルシンキングをしている。

理科

(領域ごと)

- | | |
|--------|-------------|
| ①物質 | 概ね良好な結果であった |
| ②エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ③生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・ B 区分〈生命〉に関する問題の正答率が高い。
- ・ A 区分〈物質〉、B 区分〈地球〉の正答率が低い。
- ・ 選択式の無回答はないが、記述式は無回答が多い。

分析

<福井小の子どもたちの課題>

- ・ 記述式の問題が苦手。無解答が多い。
- ・ A 区分（物質）、B 区分（地球）の正答率が低い。
- ・ 科学的な言葉や概念が理解できている児童が少ない。

<課題克服のために>

- ・ 理科だけでなく、国語や算数なども活用しながら記述をする時間を授業で確保する。
- ・ 教材を揃えて、児童が実際に体験できるようにする。
- ・ 実験の結果だけではなく、結果を分析して考察し、その内容を記述できるようにする。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率は全国平均をわずかに下回ったが、無解答率は全国を下回り良好な結果であった。
- ・教科別の平均正答率では、国語 A、国語 B は全国を上回る結果となったが、算数 A、算数 B、理科に関しては全国平均を下回る結果であった。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

- ・今年度の学力高位層の割合は昨年度より上昇したが、低位層も上昇した。中位層は、昨年度より減少したので、学力差が大きくなる結果となった。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

【国語】

福井小が継続して行っている書くことへの抵抗感をなくす取組みでは、成果があったと思われる。校内での取組みとして、①授業で感じたことや考えを書く②宿題の日記、作文、感想文を書くなどが上げられる。今後も継続して行っていきたい。

今年度は国語 A ではすべての領域で全国平均を上回っており、学校として継続的に取り組んできたことの成果が出てきたように思える。しかし、国語 B の「書くこと」、「読むこと」の領域において全国平均を下回っている。今後は、授業の中で 100 字作文や、理由の書き方などを活用して、条件がある中で「書く力」を育む取り組みを行っていきたい。また「ことばの力」プリントの活用も、学校全体で取り組んでいきたい。

(授業の流れ) 問題を読む(内容をとらえる)⇒自分の考え、感じたことを書く⇒少人数で交流⇒全体で考えや思いを交流し、深める⇒ふりかえり

(日々の授業でできること)

- ・全員発表 ・ふりかえりを授業の中で交流 ・自分のことばで発表 ・班活動で話す機会を増やす
- ・国語の授業、宿題で毎時間音読。 ・終わりの会でのスピーチ ・ペア交流

○継続して行っている取組み

- ・朝学習 ・読書ノートの活用 ・学期に 1 回「校内漢字検定 (50 問)」 ・作文や日記

【算数】

4 領域のうち「数と計算」領域のみ算数 A も算数 B も全国平均を上回ったが、他の 3 領域においては課題が残る。

(課題解決に向けての授業の流れ)

問題をただ解くではなく、問題を読み取る⇒問題のイメージを図に表す⇒いろいろな方法で解けないか考える。⇒友達の考えを理解しながら聞く。自分との違いと比較して聞く。A の考え・やり方を B が説明する。(思考を深めていく) ⇒まとめ・ふりかえりを書く⇒やってみようとして適用問題を解く

解けない、できないとなった時、あきらめずに、他に方法はないか粘り強く問題に取り組む意欲も必要である。少人数担当と担任が連携して基礎基本+思考力・判断力・表現力を培う学習指導を進めていく。

学期に 1 回「算数の授業アンケート」を行っている。児童の算数への興味・関心・意欲、理解度、最後まで解いたかを調査し、結果から見えてきた課題を持つ児童に対してきめ細やかな対応ができるように支援していく。

○継続している取組み

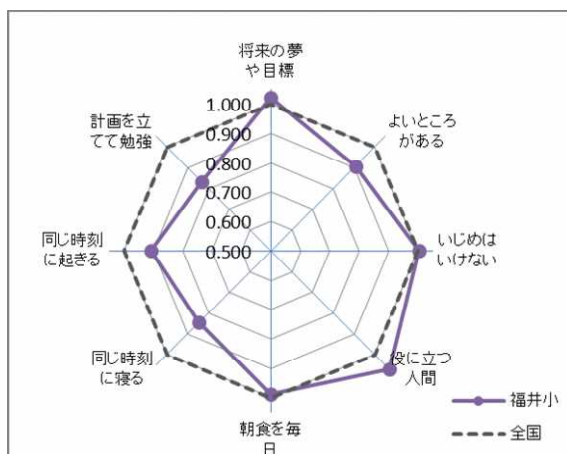
- ・朝学習 2 学期以降 各単元の復習計算問題
- ・3 学期末 「算数診断テスト」の活用・校内分析 研究授業 (年 3 回)

【理科】

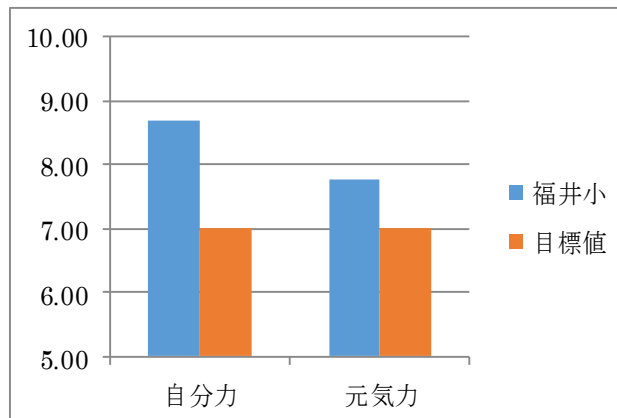
4 領域のうち A 区分「物質」、「エネルギー」と B 区分「生命」は全国平均を上回っていたが、B 区分「地球」は全国平均を下回っている。日々の授業の中で抽象的な概念を理解するためにできるだけ実験や体験を増やして具体的に理解できるよう授業を工夫していく。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

【自分力】「人の役に立つ人間になりたいか」という質問に対し、当てはまるという回答をした児童は、全国平均を大きく上回った。一方で、「自分にはよいところがあるか」という質問に対し当てはまると回答した児童は全国平均に半分以下となった。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に当てはまると回答した児童は、全国平均よりやや上回った。

【元気力】

朝食を毎日食べている児童は9割以上いる。

毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童は6割ほどいるが、同じ時刻に起きている児童は8割近くいる。朝は決まった時間に起きて朝食を食べているが、寝る時間は不規則になっている。

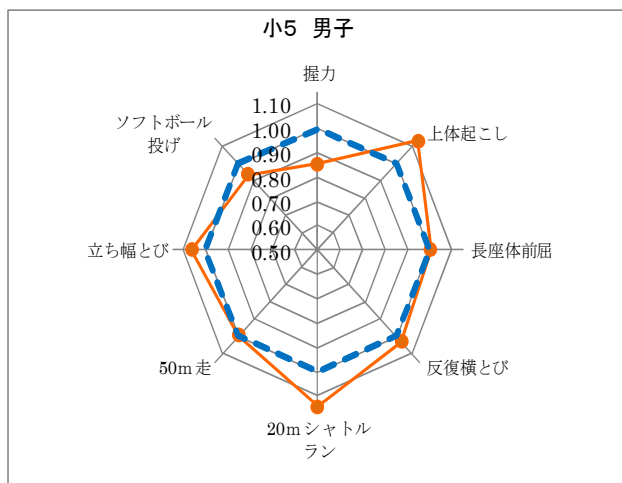
取組み

- ・学び力、元気力を育てるために北中校区で取り組んでいる家庭学習週間「生活リズム名人アンケート」(7日間)を年間5回引き続き実施する。
- ・自分力、元気力・ゆめ力・つながり力を育くむために、居心地のよい学級集団づくりを進めていく。学校行事ごとに学級集団を高め、子ども同士がつながり広げられるよう指導、支援していく。ペア学級の取組みや委員会・クラブ活動・地区児童会などの異学年交流を通して、人の役に立つ経験を増やし、自尊感情も高めていく。
- ・日々の授業の中でも児童と児童をつなげ、学習を進める工夫や、学級活動を通して個々を成長させる活動を進めていく。
- ・低学年では終わりの会に、友だちの良いところを発表する「きりりんさん」を行っている

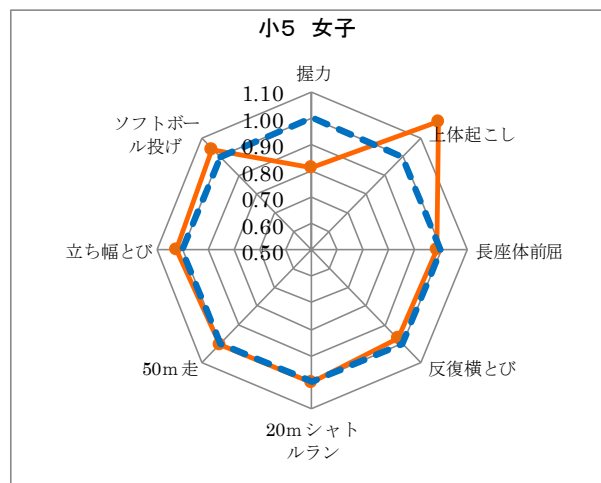
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

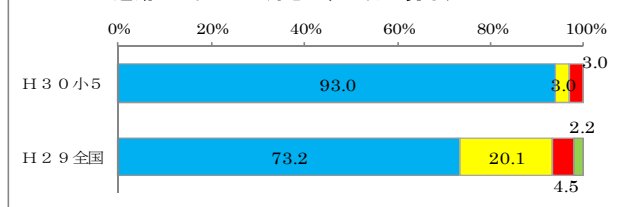
男子 (小5)



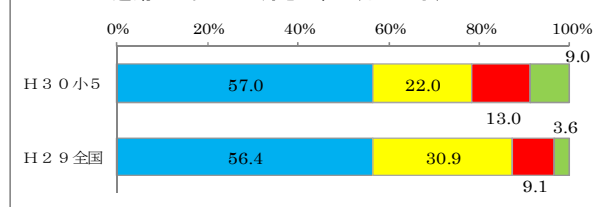
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



好き やや好き やや嫌い 嫌い

分析

<男子>

- ・男子は「20mシャトルラン」の記録が大きく伸びている。
- ・「運動することが好きですか」というアンケートに対して、好きと答えた男子児童の割合が9割を超え、去年より増加している。
- ・前年度より「立ち幅跳び」の記録が伸びている。
- ・「握力」が全国平均を下回っている。

<女子>

- ・前年度より「立ち幅跳び」の記録が伸びている。
- ・「握力」が全国平均を下回っている。

取組み

- ・全学年、授業開始5分間に茨木っ子運動で体幹トレーニングを実施している。
- ・スポーツテスト、救命救急などの校内研修会を開き、授業力向上を目指している。
- ・校外の研究授業に参加し、教育技術を学ぶ。
- ・全学年で休み時間になわとび、マラソンを実施している。(なわとび・マラソン週間)
- ・ラダー運動を体育の授業に取り入れる。
- ・体力向上には、普段の食生活や睡眠時間などの生活習慣も関わってくるので、生活リズム名人をしっかりと取り組む必要がある。
- ・1年生から6年生の発達段階に応じた年間カリキュラムを今後作成することが大切だと考える。